ONKYO

3ch スピーカー内蔵 TV ラック

# CB-SP1200XT

# 取扱説明書



お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

# オーディオ機器の正しい使いかた

## オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

**絵表示について**

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

**絵表示の例**

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⦸記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

## ⚠警告

### ■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに接続している機器の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

### ■ 改造しない

●本製品を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

### ■ 放熱を妨げない

●天面の通風孔が完全にふさがれてしまうようなサイズの製品を置かないでください。通風孔をふさぐと機器の内部に熱がこもり、火災の原因となります。

### ■ 水の入った容器を置かない

●本製品の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器はできるだけ置かないでください。こぼれて中に入った場合、製品を傷めるだけでなく、火災・感電の原因となります。

### ■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

●プールサイドや浴場など水のかかるところや湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●本製品は屋内専用に設計されています。窓際などでご使用の場合は、ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、製品を傷めるだけでなく、火災・感電の原因となります。

## ⚠注意

### ■ 中に物を入れない

●本製品の内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。製品を傷めたり、故障の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

### ■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本製品の内部に水や異物が入った場合は、すぐに接続している機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

### ■ ガラス棚を傷つけたり、衝撃をあたえない

●ガラスは強化ガラスです。使いかたを誤ると割れる恐れがあり、けがの原因となることがあります。
●鋭利なものや、尖ったものなどで傷をつけないでください。
●強化処理をしたガラスは、傷が入った状態で長時間ご使用になりますと、傷が進行して自然に破損することがあります。
●傷が入った場合は、お買い上げの販売店にご相談の上、新しいガラスと交換してください。

### ■ 組み立てについて

●組み立ては必ず二人以上で行ってください。天板部や底板部は非常に重いので、けがや腰痛の原因となることがあります。

●指などをはさまないようにしてください。部品と部品の間に指や手をはさんで傷つけることがあります。
●ネジ止めの箇所は、しっかりと締めてください。不十分な組み立てかたをすると、強度が保てず、機器が倒れたりして、故障やけがの原因になることがあります。

### ■ 設置上の注意

●傾いたところや不安定な場所に置かないでください。
●移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
●移動させる場合は、接続している機器の電源スイッチを切り、スピーカーコードや接続コードをはずしてから行ってください。落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。

### ■ 次のような場所に置かない

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災·感電の原因となることがあります。
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

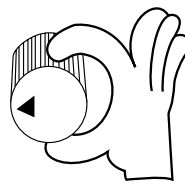
### ■ 接続について

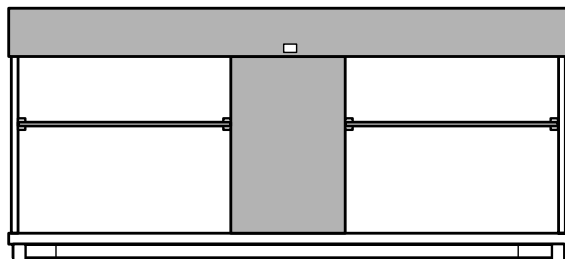
●本製品を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

### ■ 使用上の注意

●電源を入れる前には接続しているアンプの音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本製品の上に乗ったり座ったり、踏み台にしないでください。特にお子様にはご注意ください。また、天板には100kg、上段のガラス棚には左右各15kg、下段の棚には左右各25kgを超えるものを載せないでください。破損や故障の原因となります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品をスピーカー部に近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

**音のエチケット**

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

# 主な特長

本機はホームシアター用フロント3chスピーカーを搭載した、高機能TVラックです。高い収納性とインテリア性を兼ねそなえていますので、リビングですっきり美しく本格的なホームシアターを楽しんでいただけます。

正面図（サランネットを着けたところ）

## 本格ホームシアタースピーカー搭載

■ ホームシアターに最適なフロント3ch（チャンネル）スピーカーシステム（フロントL/R、センタースピーカー）を搭載
■ すべてのスピーカーユニットを同一線上（水平）に配置することにより、映画館と同様の自然な音の移動感を実現（特許出願済）
■ 単品スピーカーに匹敵する総合14.6リットルの大容量キャビネット
■ 100kHzまでの超高域再生が可能な2cmネオバランスドームツィーター
■ 単品スピーカーで開発されたオンキヨー独自のA-OMF振動板採用8cmウーファー

## 高い収納性

■ 別売のホームシアター用オプション収納対応
■ フルサイズAV機器4台収納対応

## 高いインテリア性

■ ピアノ塗装仕上げを天板部に採用
■ キャスターが目障りにならないキャスタースカート仕様

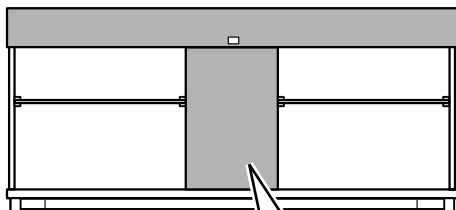
## その他

■ 配線や移動に便利なキャスターを装備（前輪2個はストッパー付き）
■ ケーブル類をスッキリまとめるスピーカーコードホルダー付属

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

## 本機にはアンプは搭載していません!

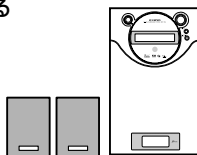
本機にはアンプを搭載していませんので、本機とテレビなどの組み合わせだけでは、音声は出力されません。本機でホームシアターを楽しむには、DHT-SW1やDHT-SR1などのホームシアター用オプション、またはAVアンプやAVセンターが必要です。

**●DHT-SW1やDHT-SR1などのホームシアター用オプション**

**DHT-SW1やDHT-SR1は、本機のセンターボックスに収納してご使用いただけます。コンパクトなサブウーファーボディに6chアンプを搭載していますので、本機との組み合わせで、手軽にホームシアターを楽しんでいただけます。**

**3.1chバーチャル再生が可能な
6chアンプ内蔵サブウーファー
DHT-SW1（2006年2月現在）**

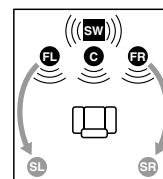
フロント3chだけで5台のスピーカーによるサラウンド効果を再現する「Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）」機能を搭載しています。後方にスピーカーを設置することなく、本機（CB-SP1200XT）に搭載する3chスピーカーだけで本格的なホームシアターが楽しめます。また、後方に設置するサラウンドスピーカーを2台追加して、5.1ch環境にシステムアップすることもできます。

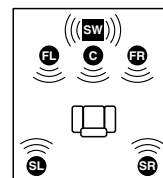
**手軽に5.1chサラウンドが楽しめる
デジタルサラウンドシステム
DHT-SR1（2006年2月現在）**

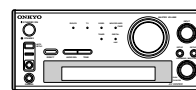
「Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）」機能は搭載していませんが、後方に設置するサラウンドスピーカーを2台付属しています。本機（CB-SP1200XT）との組み合わせで手軽に5.1chサラウンドが楽しめます。

**！ヒント　各スピーカーの役割**

- 左/右スピーカー(FL/FR)：音楽や効果音などを再生
- センタースピーカー(C)：セリフやヴォーカルを主に再生
- 左/右サラウンドスピーカー(SL/SR)：後方の包み込むような音場を再生
- サブウーファー(SW)：重低音のみを再生

**3.1chバーチャル再生**

本機（CB-SP1200XT）に搭載する左/右フロントスピーカー、センタースピーカーの3chとDHT-SW1のサブウーファー（0.1chと記載します）をあわせた3.1ch構成です。左/右サラウンドスピーカーは設置せず、仮想スピーカーによりバーチャル再生します。

**5.1chサラウンド**

本機（CB-SP1200XT）に搭載する左/右フロントスピーカー、センタースピーカーの3chとDHT-SR1のサブウーファー（0.1chと記載し ます）、さらに左/右サラウンドスピーカーの2chを後方に設置した5.1ch構成です。ホームシアターを楽しむ基本的な構成といえます。

**●SA-907FXなどのAVセンターやAVアンプ**

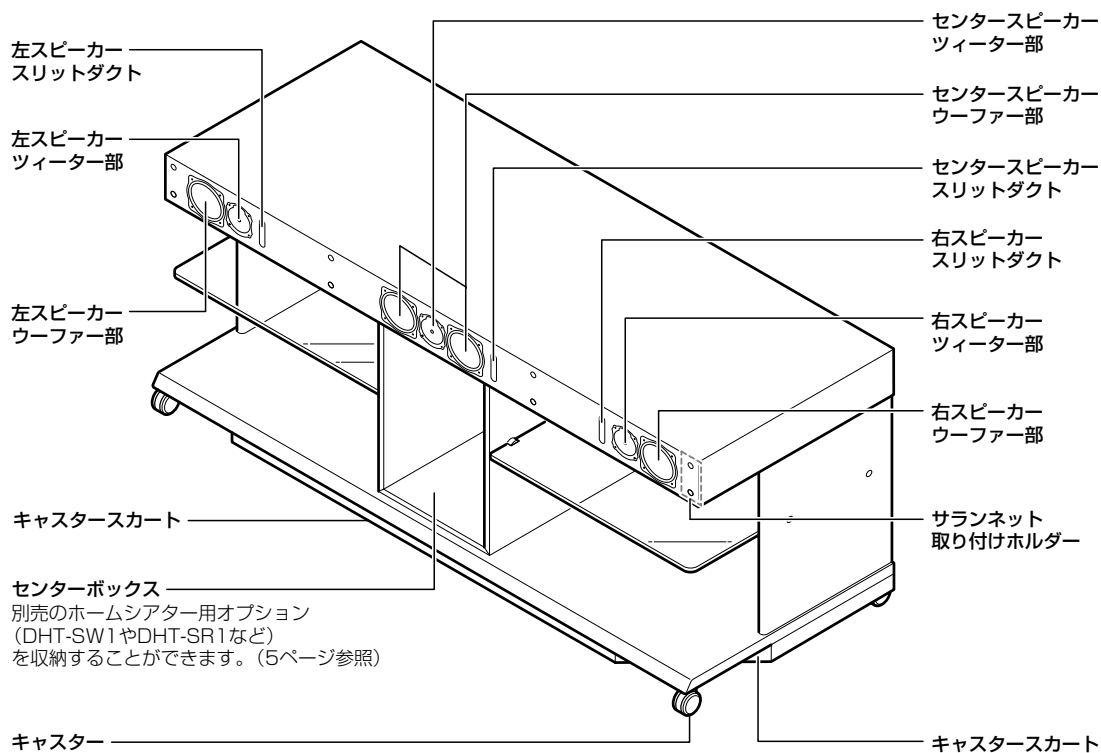
**3.1chバーチャル再生が可能な
フロント3chアンプ内蔵AVセンター　SA-907FX（2006年2月現在）**

横幅205mmのコンパクトなボディに、フロント3chアンプと「Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）」機能を搭載しています。さらに6.1ch環境へシステムアップする専用オプション（UWA-205）もございます。

- **その他のAVセンターやAVアンプ、単品スピーカーとの組み合わせでもご使用いただけます。**
  本機（CB-SP1200XT）の3chスピーカーを左/右フロントスピーカー、センタースピーカーとしてご使用いただけます。

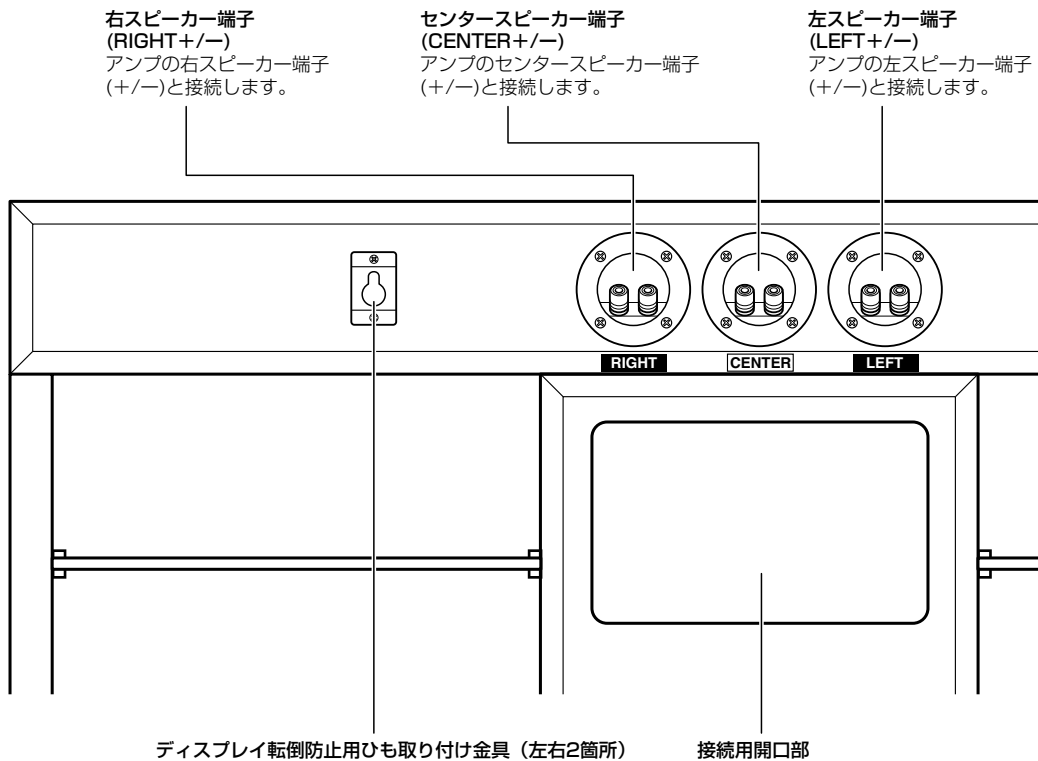
- 詳しくは、各製品の取扱説明書をご覧ください。
- Theater-Dimensionalの名称、ロゴはオンキヨー(株)の登録商標です。
- 本機のスピーカーの定格インピーダンスは6Ωです。接続するアンプはそれに適したものをご使用ください。

# 各部の名前と働き

## ■ 正面図（サランネットを外したところ）

別売のホームシアター用オプション
（DHT-SW1やDHT-SR1など）
を収納することができます。（5ページ参照）

配線や移動に便利なキャスターを底面部の6箇所に装備しています。キャスターが目障りにならないキャスタースカートにより、ストッパーが付いた前輪の左右2箇所のみが露出しています。ストッパーはレバーを下げるとブレーキがかかります。必要に応じてお使いください。

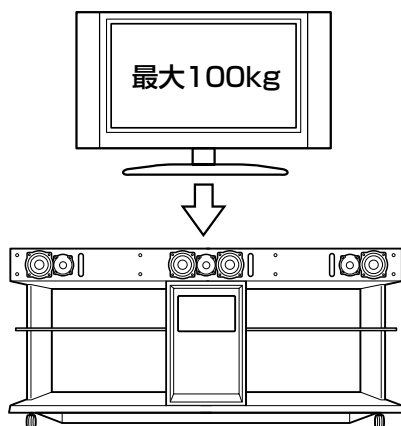
## ■ 背面図

右スピーカー端子
(RIGHT＋/ー)
アンプの右スピーカー端子
(＋/ー)と接続します。
センタースピーカー端子
(CENTER＋/ー)
アンプのセンタースピーカー端子
(＋/ー)と接続します。
左スピーカー端子
(LEFT＋/ー)
アンプの左スピーカー端子
(＋/ー)と接続します。
RIGHT
CENTER
LEFT
ディスプレイ転倒防止用ひも取り付け金具（左右2箇所）
接続用開口部
本機のセンターボックスに収納した別売
のホームシアター用オプション
(DHT-SW1やDHT-SR1など)と、
本機を接続するための開口部です。

# 設置のしかた

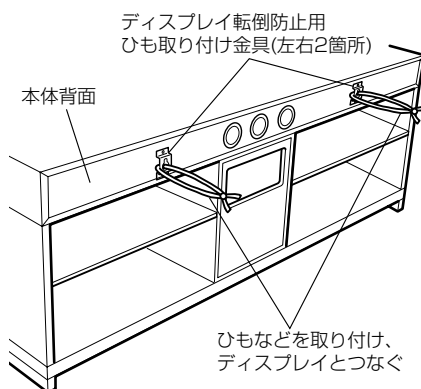
## ■ テレビの設置について

- 天板には100kgを超える機器は設置しないでください。
- 設置作業は2 人以上で行い、指詰めや腰をいためないようにしてください。
- 設置は不安定な場所を避け、壁際で安定した場所に設置してください。

1. ご使用になるテレビを、本機の天板の中央に設置してください。
2. テレビの設置する位置を調整する際は、テレビを持ち上げて行ってください。引きずると天板を傷つけることがあります。

ご注意

テレビの底面や薄型テレビの台座が、天板よりはみ出したり、片寄った載せかたをしないようにしてください。倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

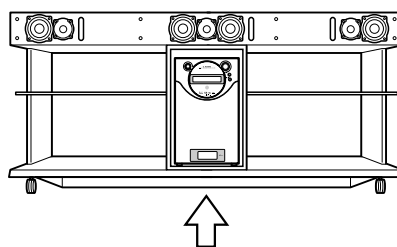
## ■ 転倒防止について

本体背面にディスプレイ転倒防止用のひも取り付け金具が左右2箇所にあります。この金具にじょうぶなひもなどを取り付け、ディスプレイ本体とつないでください。より安全な設置をすることができます。

お知らせ

ディスプレイのゴム足などの跡が天面に残ることがあります。あらかじめご承知おきください。

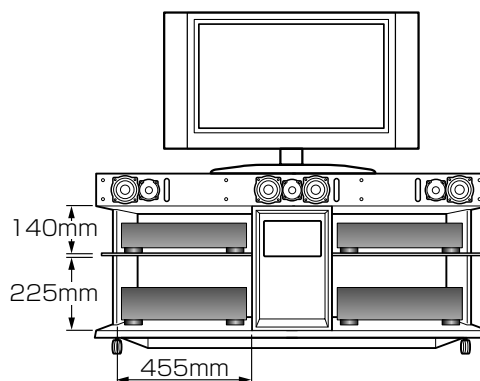
## ■ アンプ内蔵サブウーファーの設置について

別売のホームシアター用オプション（DHT-SW1やDHT-SR1など）を、本機のセンターボックスに設置することができます。設置や接続の前には、各機器の取扱説明書をよくお読みください。

1. センターボックスの裏板には接続用の開口部がありますので、あらかじめ設置するアンプ内蔵サブウーファーの電源ケーブルを本機の背面に通しておきます。
2. アンプ内蔵サブウーファーをサランネットを取りはずした本機のセンターボックスに設置します。DHT-SW1底面とセンターボックス底面の間に、電源コードをはさまないように注意してください。

## ■ 収納機器の設置について

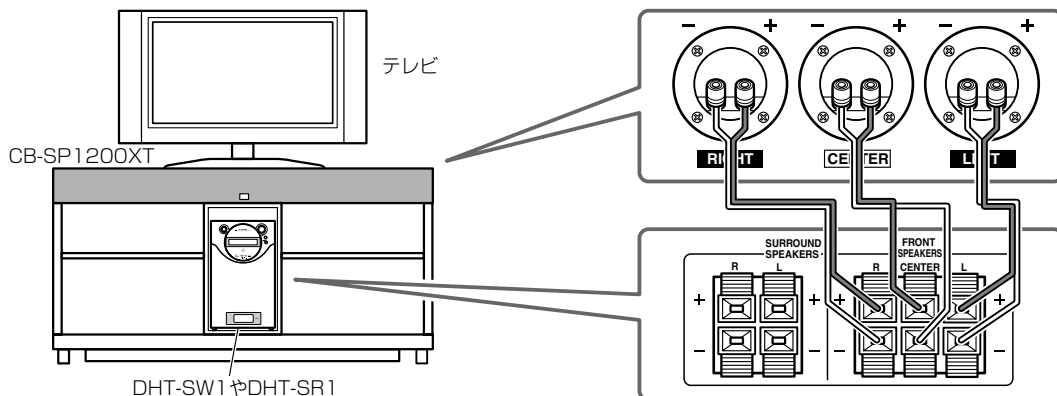
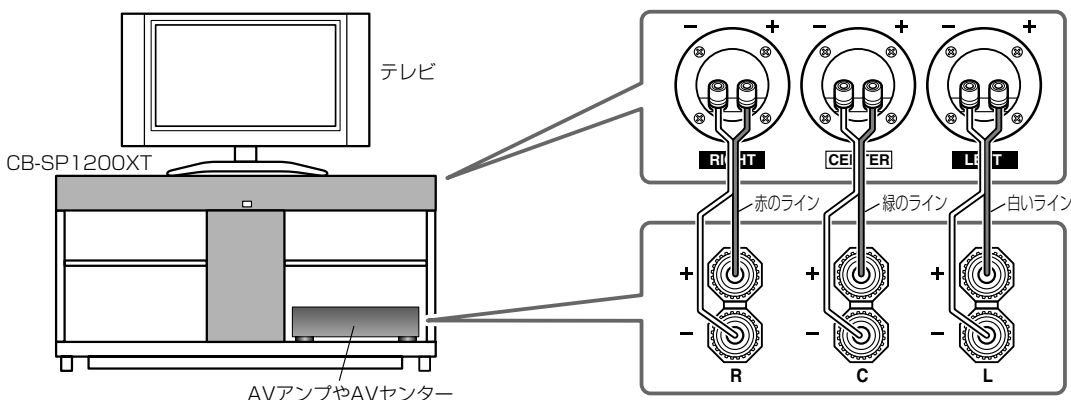
- 上段のガラス棚には左右各15kg、下段の棚には左右各25kgを超える機器は設置しないでください。

1. 本機は4台のフルサイズAV機器を収納することができます。ＤＶＤレコーダー、ビデオデッキなど、本機に収納する機器を棚に載せてください。
2. 収納機器とテレビの配線処理を行ってください。接続については各機器の取扱説明書をよくお読みください。

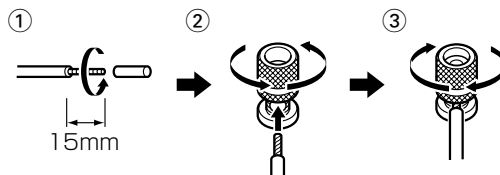
ご注意

各機器の放熱を妨げないようにしてください。各機器の取扱説明書をよくお読みいただき、機器の天面や背面から十分なすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

# 接続のしかた

## アンプ内蔵サブウーファーと接続する

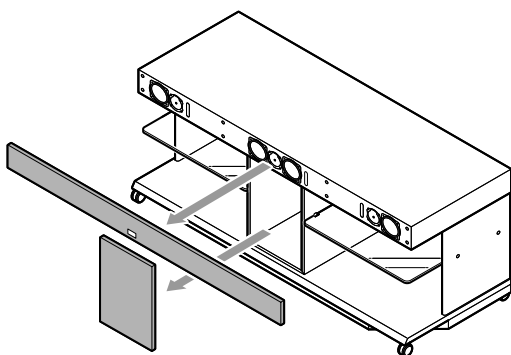
別売のホームシアター用オプション（DHT-SW1やDHT-SR1など）は、本機のセンターボックスに設置して使用することができます。

## AVアンプやAVセンターのスピーカー端子と接続する

### ■ スピーカーコードの接続のしかた

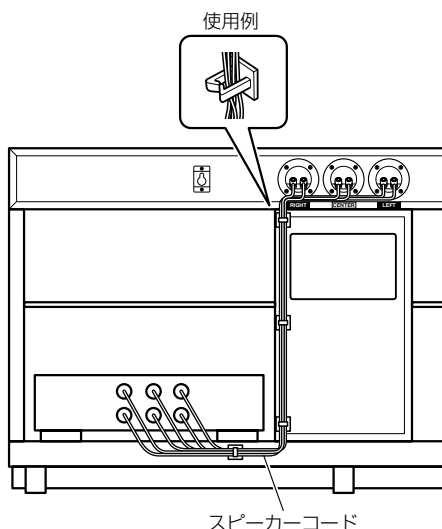
- スピーカーコードを接続するときは、アンプなど接続する機器の音量は最小にし、電源プラグを抜いた状態で行ってください。
- 本製品のスピーカーの定格インピーダンスは6Ωです。接続するアンプはそれに適したものをご使用ください。
- スピーカー端子「RIGHT（ライト）」は、アンプのR（右）スピーカー端子に接続してください。同様に、「CENTER（センター）」はセンタースピーカー端子（C）に、「LEFT（レフト）」はL（左）端子に接続してください。
- 本製品のスピーカー端子のプラス（＋）とアンプのプラス（＋）を、スピーカー端子のマイナス（－）とアンプのマイナス（－）を接続します。付属のスピーカーコードに色のついたラインが入っている方を（＋）側に接続してください。
- 本機の入力端子は、市販のバナナプラグを使用することができます。
- 組み合わせや配線などによって付属のスピーカーコードが長すぎる場合は、ニッパーなどで適当な長さに切ってお使いください。また、先端のビニールカバーをはずすときは、しん線部を傷つけないようにご注意ください。

① ビニールカバーをはずし、スピーカーコードのしん線部をよじる
② ネジをゆるめ、穴にコードのしん線部を差し込みます。しん線部がわずかに外に出ているようにしてください。
③ 矢印の方向へ回し、コードを締め付ける。

- スピーカーコードのしん線はよくよじり、確実に端子に接続してください。
- スピーカーコードを軽く引っ張ってみて確実に接続されているかどうか確認してください。
- スピーカーコードの＋、－がショート（接触）していないか十分に確認してください。ショートさせるとアンプが故障する場合があります。
- スピーカーコードの＋、－（極性）、L（左）R（右）を間違えないでください。極性を間違えると、低音感が損なわれて音の定位が定まらなくなります。

# サランネット脱着のしかた

本体前面のスピーカー部とセンターボックスにはサランネットが付いています。本体前面のスピーカー部のサランネットを取り付けたり、外したりするときは次のように行ってください。

1. 両手でサランネットを持ちます。
2. サランネットの片方の端を軽く手前に引っ張ってはずします。
3. 同じようにサランネットのもう一方の端を手前に引っ張ります。
4. 中央付近を持ってサランネットを本体からはずします。
5. 取り付けるときは、サランネットの四隅にあるピンを本体のサランネット取り付けホルダーに合わせて押し込みます。次に中央部にあるピンのあたりを軽く押さえてはめ込んでください。
   - センターボックスのサランネットについては、組立説明書の「組み立ての手順」をご参照ください。

# スピーカーコードホルダーの使いかた

本製品には、背面のスピーカーコードをまとめるためのスピーカーコードホルダーが4個付属しています。
スピーカーコードホルダーには両面テープがついています。AVアンプやAVセンターを棚に設置してご使用になる際には、適当な位置に貼り付けてご使用ください。

# 取り扱い上のご注意

## ■ ブラウン管使用のカラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本製品は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はテレビの位置を変えてみてください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

## ■ お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

## ■ 取り扱い上のご注意

本製品は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。
① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音



CB-SP1200XT(SN29344175A) 10 06.4.5, 9:38 AM
ブラック

# 主な仕様

## ■ フロントスピーカーシステム

| | | |
|---|---|---|
| **形式** | : | 2ウェイバスレフ型 |
| **定格インピーダンス** | : | 6Ω |
| **最大入力** | : | 40W |
| **定格感度レベル** | : | 79.5dB/W/m |
| **定格周波数範囲** | : | 50Hz〜100kHz |
| **クロスオーバー周波数** | : | 7kHz |
| **キャビネット内容積** | : | 3.8ℓ |
| **使用スピーカー** | : | ウーファー　8cm　A-OMFコーン型<br>ツィーター　2cm　ネオバランスドーム型 |
| **ターミナル** | : | 赤－黒バナナプラグ対応、真鍮金メッキ端子 |
| **その他** | : | 防磁設計（JEITA） |

## ■ センタースピーカーシステム

| | | |
|---|---|---|
| **形式** | : | 2ウェイバスレフ型 |
| **定格インピーダンス** | : | 6Ω |
| **最大入力** | : | 40W |
| **定格感度レベル** | : | 83dB/W/m |
| **定格周波数範囲** | : | 50Hz〜100kHz |
| **クロスオーバー周波数** | : | 7kHz |
| **キャビネット内容積** | : | 7ℓ |
| **使用スピーカー** | : | ウーファー　8cm　A-OMFコーン型<br>ツィーター　2cm　ネオバランスドーム型 |
| **ターミナル** | : | 赤－黒バナナプラグ対応、真鍮金メッキ端子 |
| **その他** | : | 防磁設計（JEITA） |

## ■ 総合

| | | |
|---|---|---|
| **外形寸法** | : | 1200(幅)×561(高さ)×464(奥行き)mm(サランネット、ターミナル突起部含む) |
| **質量** | : | 42kg |
| **収納部内寸法** | : | 〔上段・左右各〕：455(幅)×140(高さ)×423(奥行き)mm<br>(下部左右にガラス固定金具部突起あり：左右方向16mm、上下方向6mm)<br>〔下段・左右各〕：455(幅)×225(高さ)×435(奥行き)mm<br>(上部左右にガラス固定金具部突起あり：左右方向18mm、上下方向10mm)<br>〔中央・センターボックス〕：215(幅)×340(高さ)×410(奥行き)mm |
| **天板部耐荷重** | : | 100kg |
| **収納部耐荷重** | : | 〔上段・左右各〕15kg<br>〔下段・左右各〕25kg |

## ■ 主要部品

〔　〕内の数字は数量を表しています。

天板（兼スピーカーボックス・サランネット付き）〔1〕
底板（キャスター付き）〔1〕
センターボックス（サランネット付き）〔1〕
側板（左）〔1〕
側板（右）〔1〕
ガラス棚〔2〕

## ■ 付属品

〔　〕内の数字は数量を表しています。

組み立て用ネジ（2種類）〔各3〕
スピーカーコード（緑、赤、白）1.5m〔各1〕
スピーカーコードホルダー〔4〕
組立説明書〔1〕
取扱説明書〔本書1〕
保証書〔1〕
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内〔1〕

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

# 修理について

## ■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## ■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　CB-SP1200XT
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

## ■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

## ■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

## ■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

## ■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　(　　)
メモ：


ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30～17：30
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）



G0604-2

SN 29344175A